

サステナビリティマネジメントの全体像

富士通グループは、これまで責任ある企業として製品やサービスを通じて社会に信頼を届けてきました。しかし、未曾有の危機に直面し私たちのくらしやビジネスの見通しが困難な今、より一層社会からの期待に応えていくために、経営トップの主導でサステナビリティに配慮した経営を強化し、社会に有益なインパクトを生み出す方向へ大きく進んでいきます。

富士通グループのサステナビリティ経営

基本的な考え方

急速に変化する不確実な時代に、社会の変革に主体的に貢献していくには、富士通の存在意義（パーパス）を明確にした新しいFujitsu Wayに基づき、地球社会の一員として事業活動を行うことが重要です。特に、環境・社会・経済の視点から課題解決を考え、社会に対する有益なインパクトを生み出していく必要があります。そのため、従来の財務目標に加え、非財務分野の評価指標を新たに経営目標に設定しました。財務・非財務の両面から社会やお客様に長期的で安定した貢献を行い、その結果を、再び当社自身の成長へとつなげていきます。

推進体制

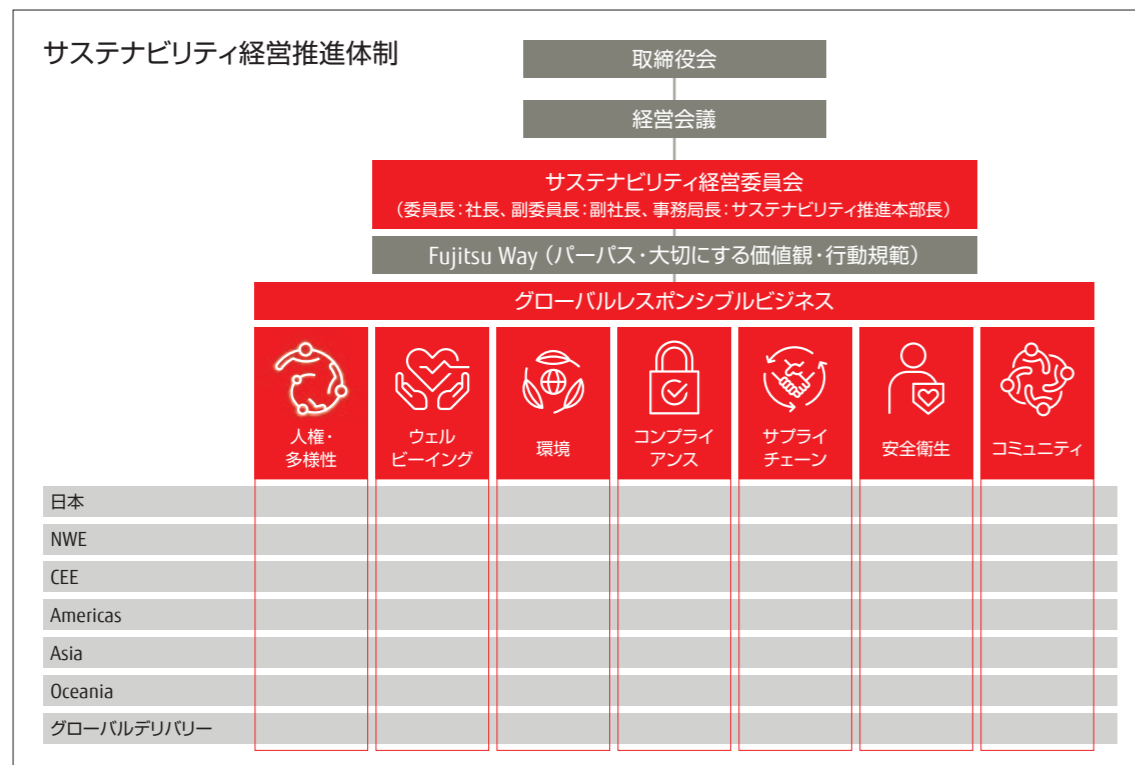
2020年4月、富士通グループは、「サステナビリティ経営委員会」を新たに設置しました。この委員会では、環境・社会・経済に与える影響を考慮し、当社を取り巻くすべてのステークホルダーへの価値創造を通じて自らも長期的に成長して

いくという、責任あるグローバル企業としての経営のあり方を議論しています。

委員会は半期ごとに開催され、非財務分野の目標達成状況の確認、新規活動の審議や討議などを行い、その結果は経営会議と取締役会に報告されます。委員長は社長とし、サステナビリティ経営の視点から委員長が指名する役員が委員に任命されます（2020年10月現在、委員長含め13名）。

非財務分野の取り組みはグローバルレスポンシブルビジネス（GRB）の枠組みで7つの重要課題を設置し、個別目標（KPI）の達成に向けてグローバルでの活動を推進しています。各本部やグループ会社のレベルでは、組織のリーダーがFujitsu Way社内推進責任者として、Fujitsu WayやGRBに基づきそれぞれの組織におけるミッションの設定や活動レビューを推進していきます。

下図のように、重要課題という縦のラインと各組織という横のラインのマトリクス体制で、サステナビリティ活動を富士通グループ全拠点で推進していきます。



グローバルレスポンシブルビジネス（GRB）

重要課題

人権・D&I	AI時代の人権尊重とグローバルな多様性の追求
ウェルビーイング	従業員の成長の実現とその力を最大限に発揮できる機会の提供
環境	脱炭素社会の実現および気候変動への適応に貢献
コンプライアンス	あらゆる事業活動における高いレベルの企業倫理の意識と誠実な行動
サプライチェーン	サプライチェーンにおける責任ある調達の実現
安全衛生	安全で健康的な職場環境の提供
コミュニティ	豊かで夢のある社会の構築に役立つ社会貢献活動の推進

GRBは、サステナビリティ活動を推進し、Fujitsu Way を具現化するためのプラットフォームです。具体的には人権・D&I、ウェルビーイング、環境など7つの重点領域を設定しグローバルなマネジメントを行っています。全グループ社員が「企業は社会の一員である」と常に意識し、利益追求のみではなく、事業活動から生じるサステナビリティの負の影響を低減し、正の影響を最大化していくことを目指します。

これらの7つの重要課題に取り組むことは、グローバルな事業活動の前提となる社会的信用の獲得・維持に向けたマルチステークホルダーとの関係強化および、社員のマインドセットとカルチャーの変革につながると考えています。特に、事業活動との関連性の高い「お客様」、そして「社員」からの信頼につながっていくと富士通グループは考えています。そのため、「顧客ネット・プロモーター・スコア（NPS）」と、

「従業員エンゲージメント」を非財務分野の経営指標と定め、現在、準備を進めています。

さらに、重要課題ごとに2022年度末を達成期限とするKPIを定め、その達成に向けて実効力のあるマネジメント体制を構築していきます。各国国内法や労働市場など国・地域ごとの違いを踏まえつつ、グローバルでより高いレベルの活動が実施できるよう、目標達成に向けた具体的なアクションについて検討を進めています。

このような活動により、長期的には非財務分野の活動をビジネス・財務結果に結びつけることを目指します。GRBの進捗状況は、サステナビリティ経営委員会でも定期的に確認し、経営方針レビューや各種媒体を通じて公表していきます。

SDGsへの取り組み

富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらす、世界をより持続可能にしていく」は、SDGsへの貢献を社内外に約束するものです。SDGsの本質は、2050年に90億人を超える人類が、地球の限界内で良い生活を営めるよう、私たちが2030年までに成し遂げるべきシステムトランスフォーメーションだと捉えています。SDGsへの貢献には、私たち自身の経営をサステナブルに変容させること、ビジネスを通じて社会課題を解決することの両面が求められます。前者はGRBによるマネジメントの強化が、後者はビジネスを複雑に連鎖する多くの要素システムとして捉えてトランスフォームすることが必要です。

これまで富士通グループは世界100カ国を超える国や地域において、ITインフラに加え、ヘルスケア、環境・エネルギー、防災、交通、働き方といった課題解決に資するソリューションを展開しています。SDGsへの貢献に向けて、デジタルの力によって業種間の垣根を越えたエコシステムの形成をリードし、共感していただけるステークホルダーの皆様とスケールある価値創造に踏み出していきたいと考えています。

詳細については「富士通グループのサステナビリティ経営」をご覧ください。
<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/vision/policy/>